

FC Ryukyu Coin に関する定期情報開示

琉球フットボールクラブ株式会社の財務情報は 2023 年 1 月 31 日時点、その他の情報は 2023 年 4 月 30 日時点の情報を開示しております。

項目	内容
(1) 発行者の情報	
イ) 発行者の名称、 所在地 及び 登録番 号	発行者の名称 : 琉球フットボールクラブ株式会社 所在地 : 沖縄県沖縄市安慶田 5 丁目 1 番 16 号 会社法人等番号 : 4360001017029
ロ) 発行者の沿革	琉球フットボールクラブ株式会社の運営するプロサッカークラブ FC 琉球は、2003 年に沖縄県初の J リーグ参入を目指すサッカークラブとして発足し、2006 年に沖縄県のクラブとしては初の全国リーグ (JFL) に昇格し、2014 年に日本プロサッカーリーグ (J3 リーグ) に加盟。攻撃的でエキサイティングな「琉球スタイル」のサッカーを確立し、2018 年には、J3 リーグ史上最速での優勝を実現し、J2 リーグ昇格を果たしました。2022 年に J3 リーグ降格となりましたが、2023 年シーズンでの J2 リーグ復帰を目指し、沖縄初の J1 リーグ昇格に向けて様々な活動を展開しています。
ハ) 発行者及びその 関係会社が営む主な 事業の概要	琉球フットボールクラブ株式会社は、プロサッカークラブ FC 琉球の運営や沖縄県内でのサッカー競技の普及、選手育成活動、また各種地域貢献活動等の企画・運営を行っています。
ニ) 発行者の役員の 氏名及び経歴	代表取締役会長兼社長 倉林 啓士郎 東京大学卒業。在学中に株式会社 DeNA にてモバイル新規事業を担当。事業立ち上げの経験を生かし大学 4 年時に起業、スポーツブランド事業を手掛ける株式会社イミオを設立。 2016 年に琉球フットボールクラブ株式会社の代表取締役社長に就任、2020 年に同代表取締役会長に就任、2022 年 4 月から代表取締役会長兼社長。 代表取締役副社長兼スポーツダイレクター 廣崎 圭 早稲田大学卒業。卒業後はエリース東京でプレーし、2001 年に SC 鳥取 (現 : ガイナーレ鳥取) へ移籍。2005 年に現役を引退して、SC 鳥取で実行委員代理や強化部長を歴任。2008 年から日本サッカー協会 (JFA) のマッチコミッショナーを 2014 年から J リーグでマッチコミッショナーを務め、2018 年に J リーグマッチコミッショナー委員に就任。2018 年 12

	<p>月、琉球フットボールクラブ株式会社の取締役役に就任。</p> <p>執行役員 荻原 直樹 神戸大学卒業。株式会社アスクプランニングセンターを経て 2003 年に東京建物株式会社へ入社。オフィスビルのプロパティマネジメント、テナントリーシング、リゾートホテル開発運営事業等に従事。2020 年 4 月に琉球フットボールクラブ株式会社へ入社、パートナー営業活動全般の業務に従事。2022 年 4 月に同社の執行役員に就任。</p> <p>執行役員 川崎 龍吾 早稲田大学卒業。LINE 株式会社を経て、2023 年に琉球フットボールクラブ株式会社へ入社、マーケティング全般の業務に従事。2023 年 4 月に同社の執行役員に就任。</p> <p>執行役員 植村 侑太 立教大学卒業。みずほ銀行入行後、2017 年に琉球フットボールクラブ株式会社へ入社、バックオフィス全般の業務に従事。2022 年 4 月に同社の執行役員に就任。</p>
<p>ホ) 発行者の業績の概要</p>	<p>琉球フットボールクラブ株式会社の 2023 年 1 月期における 2022 年 2 月 1 日から 2023 年 1 月 31 日までの累計売上高は 1,598,829 千円、経常利益は 586,246 千円、当期純利益は 585,796 千円となりました。</p> <p>※累計実績は、琉球フットボールクラブ株式会社が運営するサッカークラブ FC 琉球の事業活動及びトークンの販売による実績を含みます。</p>
<p>へ) 発行者の財務の状況</p>	<p>琉球フットボールクラブ株式会社の財務の状況は以下の通りです。IEO の会計処理については、今後の会計基準公表などの動向によっては遡及的に修正される可能性があります。</p> <p>2023 年 1 月期における 2022 年 2 月 1 日～2023 年 1 月 31 日累計実績</p> <p>【資産の部】 流動資産：864,452 (千円) 固定資産：18,438 (千円) 資産合計：882,890 (千円)</p> <p>【負債の部】 流動負債：100,901 (千円) 固定負債：102,003 (千円) 負債合計：202,904 (千円)</p>

	<p>【純資産の部】 資本金(資本準備金含む) : 318,650 (千円) 利益剰余金 : 361,336 (千円) 負債純資産合計 : 882,890 (千円)</p> <p>【損益計算書】 売上高 : 1,598,829 (千円) 経常利益 : 586,246 (千円) 当期純利益 : 585,796 (千円)</p> <p>※7月末時点ではIE0の募集金額を計画期間の5期で按分して収益計上おりましたが、2023年1月期での一括計上へと変更となりました。</p>
ト)発行者の社員数、組織及び機関	<p>[2023年4月30日時点] 社員数 : 20名 組織及び機関 : 取締役会を設置。組織としては経営企画室、業務管理部、営業部、マーケティング部、強化・育成部で構成されています。</p>
チ)発行者の株式の状況	<p>[2023年4月30日時点] 発行済株式総数 : 7,415株 筆頭株主 : 株式会社FCRマーケティング 保有株式数 : 1,950株(保有比率26.3%)</p>
リ)発行者のコーポレート・ガバナンスの状況	<p>取締役会設置会社として、定期的に取り締役会を開催しております。また、監査役を設置し取締役の職務執行も対象とした監査役監査を実施しております。</p>
(2)新規暗号資産の発行及び販売等の状況(追加発行等の状況を含む。)	<p>琉球フットボールクラブ株式会社は、2022年5月18日付でIE0 (Initial Exchange Offering)における新規発行トークンの販売を行いました。販売の概要は以下のとおりです。</p> <p>新規暗号資産の名称 : FC Ryukyu Coin (FCR) 新規暗号資産の総発行量 : 1,000,000,000 FCR 新規暗号資産の販売総量 : 450,000,000 FCR 新規暗号資産の販売価格 : 2.2円/FCR 新規暗号資産の販売総額 : 990,000,000円</p>

<p>(3) 発行者及びその 関連当事者が保有する 新規暗号資産の総 量及びその内訳</p>	<p>琉球フットボールクラブ株式会社は、511,632,385FCR（アドバイザー配布分ロックアップを含む）を保有しています。当社の保有数量は、4,374,164FCR 減少しております。なお、2023年4月30日時点において、当社保有分の売却は行っておりません。</p>
<p>(4) 新規暗号資産の 市場価格の推移</p>	<p>FCRの市場価格の推移は以下のとおりです（2023年4月30日時点）。</p>  <p>参照：https://coin.z.com/jp/corp/information/fcr-market/</p>
<p>(5) 対象事業の進捗 の状況</p>	<p>琉球フットボールクラブ株式会社は、FCR保有者のプラットフォーム「FC RYUKYU SOCIO」を通じたFCRの用途開発・事業化を進めており、2023年4月30日時点で、以下のサービスに関する発表がなされております。</p> <p>① トークンパートナー</p> <p>一定数のFCR保持者をトークンパートナーとして、FCR進呈、FC RYUKYU SOCIOサイト・スタジアムバナーへのロゴ/氏名の掲載、ホームゲームへの招待、限定交流会への参加、限定グッズの進呈等のギフトを付与する制度を企画。トークンパートナーにFCRを保持いただくことで、クラブに長期的なご支援をいただいております。</p> <p>第一回目の判定期間が2023年1月に終了し、プラチナトークンパートナー(6か月間50万FCR以上を保有)1名、ゴールドトークンパートナー(6か月間50万FCR以上を保有)14名を認定いたしました。当該トークンパートナーの皆様には、各種ギフトを提供しております。</p>

なお、2023年2月15日より、第二回トークンパートナーの判定期間が開始されております。

<https://fcr-socio.com/lp/partner/1>

②FCR 送付機能(応援機能)

「FC RYUKYU SOCIO」を通じて、FCR を選手・クラブに送付する機能をリリースしております。ファン・サポーターと選手・クラブが、直接かつ双方向に応援や感謝を伝えることができ、両者の繋がりをより密なものとするビジョンを実現していきます。

2023年2月に今シーズンの所属選手へのFCR送付機能を開始し、4月末時点で318回の応援を頂いております。

<https://fcr-socio.com/support>

③投票機能

「FC RYUKYU SOCIO」上で、FCR 保持者がクラブからの提案に対して投票する機能をリリースしております。一人ひとりが、クラブ運営に関して自らの意思を伝えることができ、透明性のあるサッカークラブ運営のモデルケースを目指します。

2023シーズンは4月末時点で13回の投票企画を実施。毎試合の「マン・オブ・ザ・マッチ」を決める投票のほか、ホームゲームイベントへの出演オファーをするゲストを決定する投票や、新商品のドリンクを決定する投票など、バラエティに富んだ内容を企画しております。

<https://fcr-socio.com/vote/past>

④決済手段としての利用

FCR で公式オンラインショップ及びホームゲーム出店店舗で使用できるクーポン、シーズンパス、限定ユニフォームなどを購入できる機能を提供しております。

2023 シーズンは、新たに「開幕戦配布タオルへのお名前・メッセージ掲載権」「上原慎也特別解説シート 5/3(水・祝) ガイナーレ鳥取戦)」など、FC RYUKYU SOCIO でのみ購入可能な特別な体験を販売しております。

さらには、沖縄県内の加盟店において、商品の購入や食事などの支払いに使用できる地域商品券を FCR で購入できる機能を 2022 年 12 月より提供しております。

決済手段としての機能が増えることで FCR の価値拡大も期待できます。また、地域商品券の加盟店は新たな顧客層の獲得や知名度向上を図ることができ、地域経済の活性化にも繋がります。2023 年 4 月末時点で 20 店舗以上の加盟店に導入いただいております。

<https://fcr-socio.com/shopping>

⑤選手に対する報酬としての利用

試合中で最も活躍した選手に与えられるマン・オブ・ザ・マッチの報酬として、100,000FCR が支払われることになっております。さらには、2023 年シーズンにおいて勝利給を FCR で支払う形を導入。これらの施策により、FCR に対する選手の関心を高め、普及活動への積極的な参加を促します。

⑥FCR の買戻しを行う「FCR Buyback Program」

FCR の持続的な価値向上のために買戻しを行う「FCR Buyback Program」を実施予定です。2023 明治安田生命 J 3 リーグ第 9 節ガイナーレ鳥取戦 (5 月 3 日) および第 12 節アスルクラロ沼津戦(6 月 3 日)に FC 琉球が勝利をした場合、最大 1,000,000 FCR の買戻しすることについて公表しました。

なお、具体的な買戻し実施時期及び買戻しの数量については、FCR の市場価格その他市場動向等を考慮して決定します。

買戻した FCR の利用用途は、FC 琉球のチーム運営・強化費・育成費や、トークンパートナー制度の報酬等への充当を計画しております。

<https://fcryukyu.com/news/39830/>

IEOにより調達した資金の用途は以下のとおりです。2024年1月期の年間計画値（5ヵ年計画を均等分割）総額に対して、2023年4月30日までの支出額を記載しております。

資金使途	年間計画 (千円)	支出額 (2023年4月 30日まで) (千円)	資金使途の内容等
FC琉球のクラブ運営・強化費・育成費	79,200	19,833	J1昇格を目指すFC琉球のクラブ運営、強化(選手獲得)、アカデミー育成強化(FC琉球高等学院の奨学金制度の充実など)に活用されます。
FC RYUKYU SOCIOのシステム開発・運用・マーケティング費	79,200	12,283	FCRを活用したFC RYUKYU SOCIO アプリケーションの初期及び追加開発・運用・マーケティングによるユーザーの拡大、FCRを利用する新規加盟店やコンテンツ獲得などエコシステムの拡大に使用されます。
FCR発行・運用費用 ※	3,960	660	FCRの発行・安定運用において必要となる暗号資産交換業者への発行手数料や法務・会計周り費用に使用されます。
予備費用	15,840	0	
合計	178,200	32,776	

※今回の情報開示から、キャッシュフローベースでの記載としたため、年間計画が修正されております。

当初の事業計画上は、IEOの募集金額を計画期間の5期で按分しておりましたが、監査法人等の協議により、当該金額を2023年1月期に一括計上することとなりました。売上計上期の変更により、事業計画を以下の通り、変更いたします。

(単位:千円)

	2023年1月期(実績)	2024年1月期	2025年1月期
(7)対象事業の事業			
計画の変更			
売上	1,598,829	578,740	770,877
売上原価	24,214	19,810	32,830
売上総利益	1,582,573	558,930	738,047
販管費	994,862	809,244	854,512
営業利益	587,710	▲250,314	▲116,465
経常利益	586,246	▲252,314	▲118,465
当期純利益	585,796	▲252,764	▲118,915